

## It is like節構文の意味と機能\*

### The Semantic and Functional Properties of the *It is like*-Clause Construction

大竹 芳夫  
OTAKE Yoshio

This paper points to various characteristics of the *It is like*-clause construction hitherto neglected, and clarifies its semantic and pragmatic properties. It is observed that the situation shown in the previous discourse is likened to that shown in the *like*-clause of the *It is like*-clause construction. The semantic and functional characteristics of the *It is like*-clause construction have been borne out by observing naturally occurring data.

**Keywords** : It is like節構文, 比況, 喩え, 比例比較級構文, 談話標識

#### 0. はじめに

英語には、(1)のような"it is like"から始まる構文がある。以下、用例中の下線および波線表示は筆者による。

- (1) a. "I think that by cleaning and leaving his clothes in the closet and keeping things just the way he had them, it's like some part of him is still here even if the time is passing." she says. (TIME, 2001/11/19)  
(「彼の衣類を洗濯して押入れに入れ、彼がしておいた通りにしまっておくことで、たとえ時が経っても彼の一部分がここにまだ残っているみたいに私には感じるんです。」と彼女は言った。)
- b. You're gonna ask anyway, she says. So I'll tell you. I do it to get away. Simple as that. These days, it's like the house is dead inside, like everything's gone, like even the air is dead. (T. Winton, *The Turning*)  
(彼女は次のように言った。「どうせ尋ねるのでしょうから言っておくわ。出てゆくためにするのよ。話は単純にそれだけよ。近ごろ、まあこの家は活気

がなくなっちゃったし、なにもかもなくなっちゃって、まあ空気さえもよどんでいるといった感じなのよ。』)

(1a-b)の下線部はいずれも"it is like"の直後に主述関係を含む定形節要素が後続する構文である。(1a)の"it's like some part of him is still here even if the time is passing"は「たとえ時が経っても彼の一部がここにまだ残っているみたいに私には感じるんです」といった意味を表す。また、(1b)の"it's like the house is dead inside, like everything's gone, like even the air is dead"は"it's like"節の後に"it is"部が省略された二つのlike節が連続しており、「近ごろ、まあこの家は活気がなくなっちゃったし、なにもかもなくなっちゃって、まあ空気さえもよどんでいるといった感じなのよ」といった意味を表現する。(1a-b)の下線部のような構文は英語の談話において頻用されるにもかかわらず、従来の研究では十分に論ぜられてはこなかったように思われる。本研究では、(1a-b)のような"it is like"から始まる構文を、be動詞の時制にかかわらずIt is like節構文と呼び、実際の用例を観察しながらその意味と機能を明らかにする。具体的には、It is like節構文がjustや"I mean"などのさまざまな談話標識と共起すること、like節内には比例比較級構文をはじめ比況や喩えを表す多様な構文が用いられることなどを指摘しながら、It is like節構文には先行する内容を話し手が聞き手にわかりやすく説明するために、具体的イメージを聞き手の心中に描かせる機能があることを明らかにする。

## 1. 先行研究

It is like節構文は、(2a-b)のような大竹(2009a)で取り上げたIt is not like節構文と同様に従来の意味論や語用論の研究では詳しく論ぜられてこなかったように思われる。

- (2) a. I don't like it. It's not fun. It's not like you're curing a cancer or fixing a broken bone. You're terminating a potential life.

(TIME, 1993/08/09 : 大竹(2009a))

(それは気に入りません。おもしろくないんです。あなたは癌を治療しているとか骨折を治しているといったような状況ではないんですよ。あなたは可能性のある生命を絶とうとしているんですよ。)

- b. But Mom agreed that she was a lot like I am. She said she is always afraid I will make the same mistakes she did. She also told me she had learned that trying to get away with stuff usually backfires and isn't a good idea. It wasn't like she was just lecturing me to death; it was like she was really talking to me.

(C. E. Walker, *The Cheerful Troublemaker*)

(しかし、母は自分が私にとってもよく似ていると認めていました。母は自分と同じ過ちを私がしてしまうんじゃないかといつも不安だと言いました。要領よくやろうとすると、たいていは期待に反した結果になるのでよくない考えだということがわかったとも母は私に話してくれました。母は私に単にお説教をしているといった感じではありませんでした。母は、本当に私にわかるように語りかけてくれているといった感じだったのです。)

(2a)の下線部は、“it's not like”の連鎖の直後に主述関係を含む定形節要素“you're curing a cancer or fixing a broken bone”を含み、「あなたは癌を治療しているとか骨折を治しているといったような状況ではないんですよ」と解釈される。(2b)では、It is not like節構文とIt is like節構文が連続して生起している。大竹(2009a)では、(2)のようなIt is like節構文の否定形It is not like節構文は、先行する内容に関して聞き手が心中に思い浮かべると予測される具体的な状況イメージを引き合いに出して喩えたうえで、それを打ち消す働きがあることを実際の言語資料を観察しながら検証した。It is like節構文は、こうした否定形だけではなく、対応する疑問文の形も観察される。

(3) JF: It's instinctive to a musician. I can feel that the dancers want me to play a little faster, a little harder, a little softer. You feel it.

SP: So is it like the dancers were needing a music for their new dance, for the tembleque? (<http://bombsite.com/issues/70/articles/2294>)

(JF: それはミュージシャンの本能だ。ダンサーたちが私にもうちょっと速く、ハードに、ソフトに演奏してほしいと私は感じるんだ。そう感じるでしょう。

SP: つまり、ダンサーたちが新しいダンスのために、腰をくねらすtemblequeダンスのために音楽を必要としていたといった感じなんですか?)

本研究は、すでに大竹(2009a)で論じた否定形や疑問形ではなく、肯定形のIt is like節構文を考察の対象とする。It is not like節構文と同様に、その肯定形であるIt is like節構文もまた先行する研究においてはほとんど着目されてはこなかったように思われる。たとえば、Swan(2005)は下記のような構文を挙げて、likeは“as {if/though}”の意味を表すと説明している。

(4) a. It seems like it's going to rain.

b. He sat there smiling like it was his birthday. (Swan (2005))

Swan (2005) は(4)のようなlikeは特にくだけた文体で使用され、アメリカ英語のみならずイギリス英語でも頻用されると説明する。しかし、Swan (2005) は"it + is + like"の連鎖をもつIt is like節構文については直接取り上げていない。

It is like節構文を引き合いに出している記述文法書にHuddleston and Pullum (2002)がある。Huddleston and Pullum (2002) は"like + finite clause"の見出しの下で(5d)のようなコピュラのbe動詞を主動詞にとる用例に言及している点で評価できる。

- (5) a. It looked like [the scheme would founder before it was properly started].
- b. You look like [you need a drink].
- c. She clasped it in her hand like [it was a precious stone].
- d. It was like [I had lost something valuable in a vault full of my own money].

(Huddleston and Pullum (2002))

(5d)は「私は自分自身のお金でいっぱい金庫室で大切な何かをなくしてしまったかのような感じだったのです」といった意味になる。Huddleston and Pullum (2002) によれば、(5a-d)のような前置詞ではなく接続詞として機能するlikeは規範的な用法ではないとみなす話者もいるが、実際には広範に使用されていると述べている。さらに、主にくだけた文体に使用が限られるイギリス英語に比べて、アメリカ英語ではより広範囲に用いられることも併せて指摘している。しかしながら、Huddleston and Pullum (2002) は本構文の談話機能や発話条件、とりわけ発話の契機となる先行文脈を示していない点で不十分な分析に留まっているように思われる。

次に辞書の記述に目を向けてみよう。本研究で扱うIt is like節構文のlikeは定形節(finite clause)を従えることから接続詞(conjunction)であると考えられる。『ランダムハウス英和大辞典』は接続詞の用法のlikeを次のように記述している。

- (6) conj. 接続詞のasやas ifの代わりにのlikeは過去500年間使われてきている：

<中略> It looks like it will rain. 雨が降りそうだ。しかし、19世紀中頃からの用法が非難されるようになり、今日では堅い書き言葉、話し言葉では避けられる。<後略> (『ランダムハウス英和大辞典』)

『ランダムハウス英和大辞典』は(6)に示すとおり、likeの史的側面や文体スタイルについて言及してはいるが、It is like節構文については例示していない。

次いで、*Oxford Advanced Learner's Dictionary, Eighth Edition*は接続詞likeの意味と用例を(7)のように記述している。

(7) conj. (informal)

1 in the same way as: *No one sings the blues like she did. It didn't turn out like I intended. Like I said (= as I said before), you're always welcome to stay.*

2 as if: *She acts like she owns the place.*

<Help> You will find more information about this use of like at the entries for the verbs *act, behave, feel, look* and *sound* and in the note at *as*.

(*Oxford Advanced Learner's Dictionary*, Eighth Edition)

上記の説明から確認できるように、*Oxford Advanced Learner's Dictionary*, Eighth Editionは、likeを"as if"と同義的に示し、be動詞ではなくact、behave、feel、look、soundとの共起関係のみを記述している。また、*Oxford Advanced Learner's Dictionary*, Eighth Editionは、asの項目においてlikeとas、"as if"とを比較し、くだけた英語(informal English)ではasや"as if"ではなくlikeが頻用されるが、格式ばった書き言葉ではlikeの使用は正しくないと考えられている旨の記述が確認できる。

- (8) In informal English *like* is frequently used as a conjunction or an adverb instead of *as*: *Nobody understands him like I do.* ◇ *I don't want to upset him again like before.* It is also used instead of *as if*: *It looks like we're going to be late.* These uses of *like* are common but are not considered correct in formal written English.  
(*Oxford Advanced Learner's Dictionary*, Eighth Edition)

*Oxford Advanced Learner's Dictionary*, Eighth Editionは上記のような記述説明をlikeに与えるに留まり、It is like節構文については例示も記述説明もしていない。また、『ジーニアス英和大辞典』も、(9)のようなlikeの使用域についての説明は確認できるものの本研究対象であるIt is like節構文には言及していない。

- (9) 《主に米略式・英非標準》[しばしば look [sound, feel] ~] まるで…のように (as if) 《◆like節中では仮定法の動詞も用いられることがある。書き言葉ではas, as ifが標準的》 || It looks [sounds] ~ the exhaust pipe needs repairing. 排気管は見たところ[音の具合では]修理が必要のようだ/It doesn't sound ~ I have a choice. もうそうするより仕方がなさそうだ。(『ジーニアス英和大辞典』)

『ジーニアス英和大辞典』は副詞として分類されるlikeにも次のような語法上の説明を与えている。

- (10) 《主に米》[文頭・文中・文尾で] まあ、その《◆つなぎの言葉としてほとんど意味なく、またはためらいの気持ちを示したり、陳述を和らげるために用いる。前後にポーズをおいたり、発話を再開するときに文頭で用いることがある》∥ I mean ~ you should go. まあ行ったらどうだね/L~, why didn't you come to me? おいおい、どうして来てくれなかったんだい。 (『ジーニアス英和大辞典』)

(10)に示すように、『ジーニアス英和大辞典』は「つなぎの言葉としてほとんど意味なく、またはためらいの気持ちを示したり、陳述を和らげるために用いる。前後にポーズをおいたり、発話を再開するときに文頭で用いることがある」との記述を副詞のlikeに与えている。『ジーニアス英和大辞典』はIt is like節構文については直接的な説明を与えていない。しかしながら、上記のようなlikeの語用論的特性に言及している点で評価できる。

また、Sinclair (2004) は、接続詞のlikeについて用例とともに(11)のような説明を与えている。Sinclair (2004) によれば、"Is it *like* you remembered it?" (「それがあなたが覚えていたような感じですか?」) のように会話では"*like* you remembered it"とか"*like* you imagined it"のように言えるが、書き言葉ではlikeの代わりにhowを用いるほうが好ましいとのことである。

- (11) In conversation, you can say that something is *like* you remembered it or *like* you imagined it.

Is it *like* you remembered it?

In writing, it is better to say that something is *how* you remembered or imagined it. (Sinclair (2004))

Sinclair (2004) はIt is like節構文の疑問形を挙げてはいるが、It is like節構文の発話の契機となる先行文脈を示していない点、It is like節構文の意味や機能について説明を与えていない点で不十分な記述となっている。

さて、本節で概観したようにlikeと"as if"と文体上の相違や使用域の差異が指摘されることはあるが、構文レベル、談話レベルでの比較対照研究は進んでいないように思われる。

また、"as if"に関する先行研究は少なくない。cf. 広田 (1974)、三浦 (1974)、矢口 (1982)、Kobayashi (1994) しかしながら、広く観察される構文であるIt is like節構文の特性についてはこれまで詳しく論ぜられてこなかった。It is like節構文は談話で頻用され、It is as if節構文と同一談話で発話されることもある。たとえば、(12)ではIt is not is if節構文に続いてIt is like節構文が後続しており、同一談話において連続して発話されていることが確認できる。

- (12) It's not as if the music was there first. It's like the lyrics were there first, it's like he's speaking about something, they make it into lyrics and the music is just like a soundtrack to it. (A. Doff, C. Jones, *Listening*)

(曲が初めからあったというわけではないんです。歌詞が初めにあったというか、彼が何か話していてそれを彼らが歌詞にして、曲はちょうどそのサウンドトラックといった感じなんです。)

(12)は、"It's not as if the music was there first" (曲が初めからあったというわけではないんです) というIt is not as if構文に後続して"It's like the lyrics were there first, it's like he's speaking about something, they make it into lyrics and the music is just like a soundtrack to it" (歌詞が初めにあったというか、彼が何か話していてそれを彼らが歌詞にして、曲はちょうどそのサウンドトラックといった感じなんです) という二つのIt is like節構文が同一談話で同一話者により発話されており、"as if"とlikeが文体スタイルの差異により使い分けられているとは認めがたい例である。また、It is as if節構文とIt is like節構文とが同一談話でしばしば共起することは次の用例からも確認される。

- (13) How do you mean? That it's one of the most beautiful places he's seen. That it has such an opportunity for peace and tranquility. And that man is very short-sighted into his own personal needs. It is kind of like he [the human] doesn't have the big picture. And in fact, we don't realize it but we don't only affect ourselves. And even when he's saying things like that. It's almost as if he's massaging my brain with every word. I think maybe that can be also a part of his love of things. . . . It's like the human population is at a crucial stage of, we're becoming a hindrance to the planet rather than helping the planet.

(D. M. Jacobs, *The Threat: Revealing the Secret Alien Agenda*)

上記の用例では、It is as if節構文が二つのIt is like節構文と同一談話で用いられており、両構文の文体スタイルの差異は必ずしも見出しがたいように思われる。

ここまで観察してきたように、It is like節構文は談話で頻用されているにもかかわらず十分にその特性が解明されてはこなかったように思われる。次節では、It is like節構文が発話される談話を分析し、その基本的な意味特性を明らかにする。

## 2. It is like節構文の意味特性

本節では、収集した実際の用例を観察しながら、It is like節構文の意味特性を実証的に

明らかにする。

まず、It is like節構文の基本的意味は、「<先行することがら>は～といった感じなのだ」、「<先行することがら>は～という印象なのだ」というような、先行することがらから話し手が直感的に受ける感じや印象を表現することであると考えられる。つまり、It is like節構文の話し手は、先行することがらを具体的にわかりやすく説明するために、聞き手が容易に理解できると想定される他のことがらを引き合いに出して聞き手の心中に思い描かせる意識があると仮定される。

では、It is like節構文が、話し手が直感的に受ける感じや印象を表現することを端的に示す事例から観察しよう。

- (14) Remember how Robert Downey Jr. described his relationship with drugs at one of his hearings? He said it's like he has a gun in his mouth, and he loves the taste of the gunmetal. (TIME, 2001/12/07)

(Robert Downey Jr.が薬物と自分との関係を尋問でどのように表現したかを覚えているでしょう？彼は、口に銃を咥えているようなもので、その砲金の味が大好きだといった感じなんだと表現したのです。)

(14)では、聞き手には容易には知りたい薬物乱用者の薬物との関係意識が、「銃」という身近な他の事物になぞらえられて"it's like he has a gun in his mouth, and he loves the taste of the gunmetal" (口に銃を咥えているようなもので、その砲金の味が大好きだといった感じなんだ) と生々しく表現されている。

しかし、It is like節構文のlike節内で引き合いに出されるのは身近な「事物」であるとは限らない。先行することがらとの関連で、聞き手に無理なく理解できるような内容や容易に共感できるような事象もまたIt is like節構文のlike節内で表現される。たとえば、「～すればするほど、ますます～」という意味を表現する"the + 比較級 ~, the + 比較級 ~"形式の比例比較級構文がIt is like節構文のlike節内に用いられる用例がしばしば観察される。次例のlike節内に"the more schooling you have, the less common sense you have"という比例比較級構文が用いられている点に注意されたい。

- (15) My husband has this idea that people with a lot of schooling don't have common sense. It is like the more schooling you have, the less common sense you have.

(W. Luttrell, *Schoolsmart and Motherwise: Working-Class Women's Identity and Schooling*)

(学校教育をたくさん受けた人には常識がないと私の夫は考えている。つまり、

学校教育を受ければ受けるほど、常識がなくなるといった具合なのだ。)

(15)では、"people with a lot of schooling don't have common sense" (学校教育をたくさん受けた人には常識がない)という先行する内容を聞き手にわかりやすく説明するために、It is like節構文のlike節内に"the more schooling you have, the less common sense you have" (学校教育を受ければ受けるほど、常識がなくなる)という比例比較級構文が提示されている。"people with a lot of schooling don't have common sense"という夫の意見を具体化するために、比例比較級構文を引き合いに出すことにより、「学校教育を受ける機会」と「常識が身につかないこと」という二つの事象に反比例の連関があると積極的に話し手は表現している。

また、次例では、like節内の"the + 比較級 ~, the + 比較級 ~"形式の比例比較級構文が引用符で囲まれており、あたかも既存の共有知識として確立しているかのような情報として提示されている。

(16) When they get what they seek, they are not contented — it is like "the more the ghost gets, the more it wants."

(U. Nyi, *Practical Aspects of Buddhist Ideals*)

(彼らは自分たちが求めていたものを手に入れても、満足しない。つまり、「死霊は持てばもつほどほしくなる」といった感じだ。)

(16)では、先行する内容、つまり"When they get what they seek, they are not contented" (彼らは自分たちが求めていたものを手に入れても、満足しない)という個別的内容を、引用符で囲んだ"the more the ghost gets, the more it wants" (「死霊は持てばもつほどほしくなる」)といった聞き手が共感できるような一般的内容に引きつけて話し手が説明している。

次のIt is like節構文ではlike節内に比例比較級構文が用いられて、幸福になることが宝くじの当選に喩えられている。

(17) The way of raising your chances of being lucky is through creating more opportunities for yourself, and persistence is one way of doing that. It's like the more lottery tickets you've bought, and the more tickets you have, the more likely you are to win the lottery. This is lotto.

(J. Rothman, *Hollywood in Wide Angle: How Directors View Filmmaking*)

(あなたが幸福になるチャンスを高める方法は、自分自身で機会を増やすこと、

そして我慢することがひとつの方法なのです。つまり、あなたが宝くじをたくさん買えば買うほど、宝くじの枚数が増え、当たる確率が高くなるといった感じなのです。これは宝くじなのです。)

(17)のIt is like節構文のlike節内に示されている比例比較級構文"the more lottery tickets you've bought, and the more tickets you have, the more likely you are to win the lottery" (あなたが宝くじをたくさん買えば買うほど、宝くじの枚数が増え、当たる確率が高くなる) という連関は聞き手にも容易に共感できる一般性の高い内容である。この連関を引き合いに出すことによって、先行する内容、つまり人が幸福になるチャンスを高める方法を話し手はわかりやすく説明していると考えられる。

次いで、(18)は比例比較級構文がlike節に提示されているIt is like節構文とLikeから始まる構文が連続して生じている用例であるが、"A second female elaborated" (2番目の女性がさらに詳しく述べた) と書かれているように、比例比較構文を喩えとして活用しながら先行する内容を聞き手が納得できるように詳述している。

- (18) "I gave change one day . . . When I gave it, I was like, I needed that. I gave it to a good cause because maybe she needed it more than I did." A second female elaborated, "That's what I noticed, it's like the more I give . . . the more I get. Like if I give somebody a dollar, when I get home, all of a sudden, my mother gives me \$20 or something.

(J. Youniss, M. Yates, *Community Service and Social Responsibility in Youth*)  
(「いつか、お金をあげました . . . お金をあげたら、そのお金が必要になったんです。たぶん彼女は私があげた以上のお金が必要だったから正当な理由のもとであげたんです。」2番目の女性がさらに詳しく述べた。「それは私が指摘したとおりのことです。あげればあげるほど . . . もっと得たくなるといった感じなんです。もし誰かに1ドルあげるとすると、家に帰ると期せずして母親が私に20ドルかそこらをくれるといった感じなんです。)」)

次例では、比例比較級構文を伴うIt is like節構文の後にもうひとつのIt is like節構文が続いている。これら二つのIt is like節構文を用いて喩えを引き合いに出すことにより、先行する内容、つまり"But I don't think the dude was just talking about money. I think he was also talking about life." (しかし私はやつがお金について話していただけだとは思わない。あいつは命についても話していたんだと思う) という内容を聞き手に具体的に説明している。

- (19) "But I don't think the dude was just talking about money. I think he was also talking about life. It's like, the more of my life I pour into' these people, the more of life I get back. It's like I can't outgive the guy. I give him more of my life and he just gives me more and more of his." (B. Myers, *The Face of God*)  
 (「しかし、やつがお金について話してただけだとは思わない。あいつは命についても話していたんだと思う。つまり、私が自分の命をこうした人々のために捧げれば捧げるほど、多くの命を返してもらえるとといったようにだ。私はあいつほど多くを与えることはできないといった感じだ。私はあいつに命を多く捧げているが、あいつはそれ以上に私に自分の命をただ返してくるのだ。)」

これらの用例が示すように、It is like節構文のlike節内に引き合いに出されるのは身近な「事物」のみならず、聞き手に無理なく理解できるような内容や、容易に共感できるような事象であることが確認できる。次節では、It is like節構文の談話機能について考察する。

### 3. It is like節構文の談話機能

ここまで考察してきたように、It is like節構文の基本的意味は、「<先行することがら>は～といった感じなのだ」、「<先行することがら>は～という印象なのだ」というような、先行することがらから話し手が直感的に受ける感じや印象を表現することである。必然的に、like節内に提示される内容は話し手の知識や経験に頼らなければ聞き手には容易には導き出せないような喩えやなぞらえとなる。そのため、話し手はlike節内の説明が単なる思いつきやその場限りの喩えであるかの印象をできる限り排除しようとしばしば試みる。しかしその一方で、like節内に提示する喩えやなぞらえが独断的、独りよがりの言として聞き手に受け止められてしまうことを回避するために、それ以外の表現でも比況の余地があるという含みを残したり、控えめに比況表現を伝達するように話し手が努める場合もある。このことから、It is like節構文の実際の用例を観察するとさまざまな興味深い語用的特徴が確認される。

まず、話し手がlike節内で引き合いに出す喩えやなぞらえが適切であることを積極的に保証する言語表現がIt is like節構文とともに顕現することがある。次例では、「誓って言う、断言する」という意味を表す"I swear"にIt is like節構文が導かれて発話されている。話し手の断定を積極的に保証する"I swear"に導かれるIt is like節構文は、like節内の比況内容が単なる思いつきや直感的・主観的な印象ではなく熟考したうえでの適切な情報であることを保証していると考えられる。

- (20) a. "Damn," Cavey says, "we gobbled that swill like a pack of hogs. I swear, it's like the worse I feel, the more I eat. [...]" (S. Halpert, *A Real Good War*)  
(「こんちくしょう、俺たちはまずいメシを豚のように貪り食ったんだ。本当に、気分が悪くなればなるほど、たくさん食べるといったようなものだ。」と Caveyは言った。[...])
- b. The scent is sweet like chocolate; I could swear it's like the cigar is, in fact, made out of a chocolate bar; that's how sweet it smelled.  
(<http://www.aspiringgentleman.com/cigars/cigar-reviews/padilla-miami-robusto/>)  
(香りはチョコレートのように甘い。このシガーは棒チョコから実際にできているといったようなものなのだ。この表現こそが、これがいかに甘い香りがするかを伝えているのである。)

第二に、It is like節構文の語用論的特性を示すものとしてjustとの共起関係を挙げることができる。"It is just that"の連鎖をもつ次例のIt is like節構文を観察しよう。

- (21) a. Well, I don't even know who she is anymore! And she doesn't know who I am most of the time. It's just like she's dead.  
(I. Vanzant, *Yesterday, I Cried: Celebrating the Lessons of Living and Loving*)  
(それに、私は彼女が誰なのかをもう識別さえできません。それに、彼女のほうも、ほほいつも私が誰なのかがわからないのです。つまり、彼女はまさに死んだも同然といった感じなのです。)
- b. They are no longer interested in their doctor, who has perhaps been their doctor for five, six, ten years. They are really interested in what it's going to cost them. It's just like they're going shopping at the local supermarket.  
(*TIME*, 1989/03/31)  
(彼らは5年、6年いや10年間、自分たちのかかりつけであったであろう医者にもはや興味がないのだ。彼らは、実のところ、支払う医療費に関心があるのだ。それは、地元のスーパーマーケットに買い物をしに行くところといったちょうど感じなのだ。)

上記の(21a-b)におけるjustは「まさに」、「ちょうど」といった意味を表し、like節の内容が先行する内容と類似性が相当程度に高いことを話し手が積極的に保証している。この意味のjustを伴うIt is like節構文は「まさに～といった感じである」、「ちょうど～のようである」

と解釈でき、先行する内容とlike節内の喩えがぴったりと一致するということがjustにより積極的に表現されている。このような意味を表すjustを伴うIt is like節構文は、次例のように話し手の解釈を合図する"I mean"によってしばしば導かれる。

- (22) a. It's like her responsibility . . . like, last night I went over there and right when I walked in she had a bag of Doritos — she was just, I mean, it's just like she's constantly eating. She's addicted to food. She just can't stop.

(M. Nichter, *Fat Talk: What Girls and Their Parents Say about Dieting*)  
 (彼女の責任という感じだ . . . 実はその、昨晚そこへ行き、歩いて中に入ったら、彼女がちょうどドritosを1袋持っていた。ただ、つまり、その、彼女はまさに絶えず食べているといった感じだ。絶えず食べていないといられない人なんだ。彼女はやめられないだけなんだ。)

- b. I mean, I came in here today to Cardinal camp and I saw Willie McGee, and here's Willie McGee, a veteran and a coach. I mean, it was just like yesterday [that] Willie was a twenty-two-year-old rookie with us on our 1982 World Championship team. And Dave LaPoint and Glenn Brummer were both there. Dave Ricketts is coaching, he's still here. I mean, it's just like I closed the door and walked out, and five minutes later came back in again.

(D. Zachofsky, *Idols of the Spring: Baseball Interviews about Preseason Training*)

(つまり、その、私は今日ここカーディナルのキャンプに来て、Willie McGeeを見たけど、ここにいたのはベテランでコーチとなったWillie McGeeなんだ。つまり、その、Willie が1982年のワールドチャンピオンシップのチームで私たちと一緒に戦った22歳のルーキーだったのが昨日のことのようだった。そして、Dave LaPointとGlenn Brummerが二人ともいた。Dave Rickettsはコーチをしていて、まだここにいる。つまり、その、私はドアを閉めて外に歩いて出て、5分経ってまた戻ってきたといったまさに感じがしたんだ。)

後述するように、「I mean」は話し手が先行情報を十分に認識処理をしたうえでの説明を伝える談話標識である。justを伴い、「まさに～といった感じである」、「ちょうど～のようである」と解釈できるIt is like節構文は、先行する内容とlike節内の喩えの一致を合図するjustと、先行情報が話し手の知識において十分処理済みであることを表現する"I mean"とが相俟って、like節内の比況内容が適切な情報であることを積極的に表現していると考えられる。

ところで、justには上記のような「まさに」、「ちょうど」という意味だけではなく、onlyやmerelyに近い意味の「ほんの～にすぎない」、「ただ～だけ」という程度の低さも表すこともできる。しかしながら、このような話し手の断定の弱さを表すjustがIt is like節構文と共起する用例は手元の言語資料には一例もない。このことは、対人関係を良好に保つための緩衝機能を持つjustがしばしばIt is that節構文に現れる現象と対立的であり興味深い。It is that節構文の特性を論じた大竹（2009b）では、It is that節構文の語用論的特徴のひとつを示すものとして、「ほんの～にすぎない」、「ただ～だけ」という意味を表すjustとよく共起するという事実を指摘した。

- (23) a. I must apologize for my behavior in the office, it's just that your appearance was a bit of a shock to me.

（映画*Elvira, Mistress of the Dark*（1988）の台詞：大竹（2009b）  
（会社での私の振る舞いについては、申し訳ございません。ただ、あなたの外見が少し私にはショックだっただけなのです。）

- b. Apple Tree: Are you hinting my apples aren't what they ought to be?

Scarecrow: Oh, no! It's just that she doesn't like little green worms!

（映画*The Wizard of Oz*（1939）の台詞：大竹（2009b）  
（りんごの木：あなたは私のりんごが本来のりんごの姿ではないと言おうとしているんですか？

かかし：えっ、いいえ！ 彼女は小さな青虫が好きじゃないだけなんです！）

Lee（1991）の分析から明らかのように、justには、話し手が相手の主張や提案を否定したり断ったりする際に対人関係を良好に保つための緩衝機能がある。It is that節構文は相手の誤解を予想し、それに代わる話し手の解釈を表現する。裏を返せば、It is that節構文には相手の解釈の誤りや知識の欠如を問題にする可能性がついてまわる。It is that節構文にjustが多く使用される理由は、話し手が聞き手の誤解を予測し、ある情報を既定のものとして談話に導入する際に、聞き手にその情報を押し付けている、あるいは聞き手の無知をあげつらっているという含意を積極的に回避しようとする話し手の気持ちの表れであることを大竹（2009b）で詳細に論じた。しかしながら、聞き手の誤解を予想し、それに代わる話し手の解釈を表現するIt is that節構文とは異なり、話し手の心中の比況イメージを表現するIt is like節構文には、聞き手の無知や知識欠如をあらかじめ回避するための緩衝表現を用いる必要はないと考えられる。そのため、「ほんの～にすぎない」、「ただ～だけ」という意味を表すjustはIt is like節構文とは共起しがたいと説明できる。

さて、It is like節構文の第三の重要な語用論的特性として、“I mean”、“I mean to say”

としばしば共起する事実を挙げることができる。話し手の解釈の提示を合図する"I mean"、"I mean to say"に導かれてIt is like節構文が談話に生起する用例を観察しよう。

- (24) a. They waited until they got to the hospital and, I mean, it's like he didn't want to go to the morgue. He didn't want to go. I mean he was really, really . . . He would have rather his body just stayed out in nature.

(P. Mercurio, *The Message: A Conversation with Christ and the Events That Preceded It*)

(彼らは病院に着くまで待っていた。つまり、彼は遺体安置所に行きたくなかったという感じなのだ。実際に、彼は行かなかったのだ。つまり、その、彼は本当に、本当に . . .。彼は自分の体を自然に任せて外においておきたかっただけなのだろう。)

- b. "Will you have someone come out tomorrow to look at it? They're probably going to have to refinish the whole thing. That's five hundred dollars down the drain right there." "Okay. I'll call someone tomorrow." "I mean, it's like we're throwing the money out an open window." "Yes," Margie said.

(*Atlanta Magazine*, August 2005)

(「明日、誰かを見に来させてくれない? たぶん、全部を仕上げ塗りしなければならぬことになるわ。500ドルをどぶに捨てることになるわ。」「わかったわ。誰かに電話するわ。」「まあ、開いている窓からお金を投げ捨てるような感じよ。」「そうね。」とMargieは言った。)

- c. Luke, honey, don't cry. She isn't dead. I mean, it's just like she's asleep. She might wake up.

(M. Gardner, *Milkweed*)

(ねえLuke、泣くのはおやめ。彼女は死んではいないよ。まあ、彼女は眠っているといったまさに感じなんだよ。目を覚ますかもしれないよ。)

- d. I switch on "It's Now or Never" and Harry runs onstage, in a mockup of that skin-tight black leather bodysuit from Elvis's comeback TV special. I mean to say, it's like he's wearing a coat of black paint. (M. J. Vaughn, *Outro*)

(「It's Now or Never」をつけるとHarryが舞台に駆け上がるシーンが映った。ElvisがカムバックTV特別番組で着ていた肌にぴったりの例の黒革のボディースーツのモックアップを身にまとっていた。つまり、彼は黒ペンキのコートを着ていたといった感じなのだ。)

上記の(24a)では、"I mean, it's like he didn't want to go to the morgue." (つまり、彼は遺

体安置所に行きたくなかったという感じなのだ。) という話し手の感じや印象を表すIt is like節構文の直後に、"He didn't want to go." (実際に、彼は行かなかったのだ。) という断定が続いている。これまで論じてきたように、It is like節構文のlike節内で伝達される情報は聞き手には知り得ない、話し手が心中で描く喩えやなぞらえである。このような話し手の感覚や印象による比況は、単なる思い付きとして受け取られ、しばしば独断的な含みや独りよがりの言といった含意を伴うであろう。そうした含意を回避するために、like節内の比況内容をそのまま相手に伝えるのではなく、話し手が先行情報を十分に認識処理をしたうえでの説明を伝える談話標識"I mean"、"I mean to say"を介して談話に導入していると考えられる。

第四に、"kind of"、"sort of"といったhedge (垣根表現) とともにIt is like節構文がしばしば用いられることも本構文の語用論的特性を示している。次に挙げる(25a-b)はIt is like節構文に"kind of"が付加されている用例、(26a-b)は"sort of"が付加されている用例である。

- (25) a. There is no intimacy in their current relationship. Julie explained that it is kind of like he was captured by aliens and then got his memory erased.

(J. S. Knight, *Feminist Mysticism and Images of God: A Practical Theology*)

(彼らには現在は親密な関係はまったくない。Julieは「彼は宇宙人に捕らえられて記憶を消去されてしまったといった感じ」だと説明した。)

- b. If you are doing a picture, it is kind of like you are the pilot of a plane. You take off and you hope it's going to fly very high and it's going to land very smoothly.

(R. Horton (ed.) *Billy Wilder: Interviews*)

(もし絵を描くならば、あなたは飛行機の操縦士になっているといった感じなのです。離陸し、高度を上げて、やがて順調に着陸したいと思っています。)

- (26) a. It's YOU approaching it as opposed to IT approaching you. There are large trees when I go into a forest, it's sort of like the forest is coming at me. But when I'm walking in the desert, it's sort of like I am going to the desert.

(S. N. Goldsmith, *Place-Making in Arizona's Southwestern Desert*)

(あなたがそれに近づいているのであって、それがあなたに近づいているのではないのです。森の中に入ると大きな木々が生えていて、森のほうが私に近づいてきているといったような感じですが。しかし、砂漠を歩いていると、私のほうが砂漠に向かっているといったような感じなのです。)

- b. "This is a weird campus. It's sort of like the university and the administration are the adults, and we're just kids who don't know any better." Female and male students in the same room past a certain hour,

even with the door open, results in students being kicked out.

(T. Vellela, *New Voices: Student Activism in the '80s and '90s*)

(「ここは変わったキャンパスだよ。大学当局が大人で、私たちが分別のつかないただの子供といった感じなんだよ。」女子学生と男子学生がたとえドアを開けたままでも一定時間一緒にいると退学になるのだ。)

上記の"It is kind of like"や"It is sort of like"で始まる構文は本研究の考察対象であるIt is like節構文の派生形であると考えられる。"kind of"や"sort of"には表現を和らげたり、ほかしたりする談話機能があることが先行研究で指摘されている。たとえば、Biber et al.(1999)では、"kind of"、"sort of"は「曖昧さを表す副詞相当語句」(adverbials of imprecision)と呼ばれている。It is like節構文がしばしば"kind of"、"sort of"といった表現を伴って発話されるのは、like節内の比況描写の他にも表現の余地があるという含みを残し、控えめに比況表現を伝達しようとする話し手の意識の表れであると考えられる。

最後に、It is like節構文の"It's like"部分が直後に休止を伴って独立して機能する用例を観察しよう。次の(27a-c)におけるIt is like節構文の"It's like"の部分は、その直後に休止を伴って疑問文の語順をとる命題を導入しており、もはや独立した談話標識として機能しているともてよい。

- (27) a. The Beag can't figure out what's going on. To her it's like, why are we out here in the middle of the night? (S. Patron, *Lucky for Good*)

(Beagは何が起きているのかわからないのだ。彼女にとっては、なぜ真夜中に私たちがこんな外にいるのだろうか?といった感じなのだ。)

- b. They put them all in a standard group and then they're all bad. I mean, it's like — why are you going to put all bad kids in the same class, knowing that they're all going to be bad?

(S. B. Sachs, *Voices of Reason: Adolescents Talk about Their Futures over Time*)

(かれらは全員を普通の集団に入れ、その結果全員が悪くなる。つまり、なぜあなたは、悪い子全員を同じクラスに入れれば悪くなると知りながら入れようとするのか?といったような感じなのだ。)

- c. Sure, I can say some poor people deserve to be poor, because they don't want to work. But . . . it's like, why don't they want to work?

(K. T. Gaubatz, *Crime in the Public Mind*)

(もちろん、貧者の中には貧者に相応しい者もいる。だって勤労の意欲がない

んだから。でも...なぜ働かないのか?って感じなんだ。)

このような現象は、大竹(2009b)で指摘したIt is that節構文の"It is (just that)"部分が直後に休止を伴って独立し、話し手が思慮を巡らせながら解釈や内実を切り出す際の談話標識としての機能を果たす言語現象と類似している。次例では、"It's just"の直後に休止が置かれ、そこが独立した情報単位であることがわかる。

- (28) a. She looked over at Martin, who looked suddenly unhappy. "This music annoys you, doesn't it?" Martin squirmed. "It's just — why can't he sing any one song all the way through?" (L. Moor, *Terrific Mother* : 大竹(2009b))

(彼女がMartinの方へ目をやると、急に彼の表情が曇った。「この音楽のせいで君はいらだっているのかな?」とMartinがもぞもぞ言った。「えっと、実はただ...あいつはなぜ1曲も歌い切れないのだろう?」)

- b. Saffron Monsoon: What is the matter? Has the deal fallen through?

Edina Monsoon: Not the deal! Not the deal! Not that! It's just ...

Saffron Monsoon: What?

(ドラマ*Absolutely Fabulous* (1992)の台詞:大竹(2009b))

(Saffron Monsoon: どうしたの?取り引きがだめになったのか?)

Edina Monsoon: いいえ取り引きじゃない!取り引きじゃない!そうではなく、その、実はただ...。

Saffron Monsoon: 何なのさ?)

大竹(2009b)で考察したように、(28a)では、"It's just"の後に休止が置かれ、whyで始まる直接疑問文が後続している。これは、話し手が不快に感じているという状況と結び付く適当な事情をthat節に入れて表現する余裕がなかったため、その心理状況を直接疑問文で表出したとみてよい。(28b)においても、話し手が"Not the deal! Not the deal! Not that!"と述べて相手の推論が実情とは異なることを否定してはいるものの、"It's just"で発話が途切れてしまっている。これらは、It is that節構文の話し手が、事の真相を断定できるだけの情報をまだ持ち合わせていない、あるいは事情を提出するのを躊躇しているなどの理由で"It's just..."(「その、実はただ...」)とだけ発話して言いよどんでいると考えられる。いずれも、"It's just"の部分が独立して用いられており、談話標識としての機能を担っている。このように事の真相や実情を談話に導入するIt is that節構文においては、"It is"、"It's just"あるいは"It's just that"の部分だけで、話し手が弁解や教示を伝達する談話標識としての機能を果たしているように思われる。本研究対象のIt is like節構文の"It is like"部分が独

立して談話標識として機能する用例がどれほど確立しているのかは今後の調査・研究を待たなければならない、しかしながら、先の(27a-b)のような"It's like"の直後に休止を伴い why疑問文が後続する用例や、次のような"It's like"部分が独立して繰り返し発話される例は多く観察される。

- (29) I mean, sort of the very neutral kinds of, I mean, it's like I should be going like: "I'm terrific! Look! I've exceeded every goal this firm has set for me!" It's like, I can't do it. It's like, oh, there's a real uncomfotableness about like, writing that down. It's like nooooo. I mean, come on. . . .

(M. Chávez, *Everyday Injustice: Latino Professionals and Racism* )

さらに、It is like節構文の"It's like"部分が談話標識としての機能を確立しつつあることは次の指摘からも裏付けられるように思われる。(30)は、*The Mansions of Limbo*. ( J. Roccasalvo著. Xlibris Corporation. 2010年.) の"grammar patrol"という章からの引用で、著者Roccasalvoが映画館で実際に聞いたアメリカの若者たちの会話例である。言語学の専門書ではないが、"It's like"の最近の使用の実態と著者の認識が観察されるので確認しておきたい。

- (30) "I mean, like, it wasn't the money, you know." "Money?" their male companion said. "What money? It's not like the guy didn't borrow from her. I mean it's like they'd go out and she'd pay, and like, he'd get drunk on beer. College stuff, you know." (J. Roccasalvo, *The Mansions of Limbo* )

(「いや、まあ、金じゃなかったんだよな。」「金だって？何の金だ？あいつは彼女から金を借りなかったという感じじゃない。つまり、彼らは出かけて行って、彼女が支払いをし、ビールで酔っ払うといった感じなんだ。大学生みたいな行動なんだよね。」と彼らの連れの男が言った。)

上記の若者たちの会話から、著者Roccasalvoは"But your creative use of the words *I mean, you know, and it's like* proves enclitics have entered the language with a vengeance" (でも、あなたたちが独創的に"I mean", "you know", "It's like"を使うってことから、前接表現が大いに英語に取り込まれてきたことがわかるわ) と述べ、"I mean", "you know", そして本研究対象である"It's like"が、文に前接される表現(enclitics)として最近の若者たちの間で多用され定着しつつあることを紹介している。It is like節構文のこうした用法の実態を調査することは本研究の目的ではない。しかしながら、"It's like"が

本来の比況の意味を表す用法から、婉曲を表す談話標識の用法を派生する過程を辿っている可能性を示唆しているように思われる。

#### 4. まとめと今後の研究課題

本研究では、実際の用例を観察しながらIt is like節構文の意味と機能を考察した。It is like節構文の基本的意味は、「<先行することがら>は～といった感じなのだ」、「<先行することがら>は～という印象なのだ」といった、先行することがらから話し手が直感的に受ける感じや印象を表現することであることを確認した。It is like節構文のlike節内で引き合いに出されるのは身近な「事物」であるとは限らないこと、先行することがらとの関連で、聞き手に無理なく理解できるような内容や容易に共感できるような事象もまたIt is like節構文のlike節内でしばしば表現されることを実証的に説明した。

また、It is like節構文が“I swear”、“I mean”などの談話標識と共起する事例を観察しながら、It is like節構文の語用論的特性についても考察した。It is like節構文のlike節内に提示される内容はそもそも聞き手には知り得ない、話し手が心中で描く喩えやなぞらえである。このことから、話し手はlike節内の説明が単なる思いつきやその場限りの喩えであるかの印象をできる限り排除しようとしたり、逆に独断的、独りよがりの言として聞き手に受け止められてしまうことを回避するために、それ以外にも比況を表現する余地があるという含みを残したり、控えめに比況表現を伝達しようと試みることを明らかにした。It is like節構文とIt is [as if / as though]節構文との異同、さらには日本語の比況表現「～ようだ」との普遍性と個別性の解明については今後の研究課題としたい。

\*本研究は、平成21-23年度日本学術振興会科学研究費補助金基盤研究(C)課題番号21520502「日英語の名詞節化形式の意味と談話機能の派生メカニズムに関する理論的・実証的研究」(研究代表者：大竹芳夫)および平成23年度新潟大学プロジェクト推進経費(発芽研究)「日英語の指示表現選択と名詞節化の諸相に関する記述的・理論的研究」(研究プロジェクト代表者：大竹芳夫)の研究成果の一部である。

#### 参考文献

- Biber, Douglas, Stig Johansson, Geoffrey Leech, Susan Conrad and Edward Finegan (1999) *Longman Grammar of Spoken and Written English*. Harlow: Pearson.
- 広田典夫. (1974) 「As ifとAs though：補足的にLike」『早稲田商学』Vol. 247, 995-1019.
- Huddleston, Rodney and Geoffrey K. Pullum (2002) *The Cambridge Grammar of the English Language*. Cambridge: Cambridge University Press.
- Kobayashi, Keiichiro (小林桂一郎) (1994) "A Small Clause Analysis of As If-Constructions." 『英文学研究』第70巻第2号, 171-191. 日本英文学会.

- Lee, David A. (1991) "Categories in the Description of *Just*." *Lingua* 83, 5-28.
- 三浦謙. (1974) 「George Orwellの作品 ('Animal Farm' および 'Nineteen Eighty-Four') にみられるas thoughの文体的意義」『広島経済大学研究論集 人文・社会・自然科学編』第10号, 25-40.
- 大竹芳夫. (2009a) 「比況を表す英語構文の実証的考察：言語資料の観察に基づくIt is not like節構文の分析」『新潟大学経済論集』Vol. 86, 217-226.
- 大竹芳夫. (2009b) 『「(の)だ」に対応する英語の構文』東京：くろしお出版.
- Sinclair, John (2004) *Collins COBUILD English Usage for Learners*. Second Edition. Glasgow: HarperCollins Publishers.
- Swan, Michael (2005) *Practical English Usage*. Third Edition. Oxford: Oxford University Press.
- 矢口正巳. (1982) 「As if -clauseの語法について：独立用法、その他」『青山学院女子短期大学紀要』Vol. 36, 87-103.

## 辞書

- 『ジーニアス英和大辞典』(2001) 東京：大修館書店.
- 『ランダムハウス英和大辞典』(1994) 東京：小学館.
- Oxford Advanced Learner's Dictionary*. Eighth Edition. (2011) Oxford: Oxford University Press.